



ふるえる心をもつために

何か変だぞと思いながら、わけの分からぬまま、暴風雨に振り回されながら過ぎていく感のあるこの秋。

そして運動会は、台風の翌週であったにもかかわらず、相変わらずの天候不順で、お借りしていた宮上小の体育館での開催となりました。

まったく形を見えなく再現するというよりは、サーキット(障害物走)の場面に象徴されるように、当日もいつものように、コース作りから楽しもうという「ライブ感」も大事にしていきました。

「体」を動かす運動会も、自分たちで作ろうとするほど「頭」も動かし、「体」と「頭」をさせせと動かしていったら、いつの間にか「心」も動いていった…開会の挨拶で、当日までのワクワク感を、私はそんな言葉で表現しました。



園児自作曲の斉唱(録音)で幕を開けた運動会。運動会そのものを子どもたちと一緒に作ってみよう、みんなで決めた演目を、毎日の遊びの中で十分に楽しんでいこう…そんな思いで進めているためか、伝統的な運動会らしさから、どんな遠のいていくようで…その代わりに、当日までの毎日の遊びがどんどん充実していった、前日の園内は、運動会に関する歌にダンスにおしゃべりに、最高潮を迎えていたような気がします。

当日は、普段遊んでいる園庭とは勝手が違ったため、少し戸惑いながらも、決

ある方は、ぜひ手にとってみてください()

その本の中で、「どうして、女らしく男らしくしなければならぬか」、つまり「らしさとはどういうことか」という疑問にも答えていました。

すると、「それは、心配性と同時に、無知ということから起こることが多い。」と手厳しく、食べ物や樹木にも、それ以上に女にも男にも、いろいろな人がいるわけなので、『らしく』と言われても、どの『らしく』なのか見当もつかないというのが正解でしょう。」と続きます。

運動会「らしさ」なんて呟いていた私は、なるほど、まだまだ無知なのかもしれません。

そして、そんな人には『大人らしくないわよ』と軽く対応してあげましょう。」と、その章は結ばれていました。

そして最後に、「なぜ友だちと競争しなくてはいけないんだろう」への回答もご紹介。

競争の全てが悪とは言えないまでも、自分にとって必要もない競争を、周囲から強いられることだけはつまらない…と前置きしながら、

「競争が常に価値を持てる方法がただひとつあります。自分と自分が競争することです。」

他人が褒めても、自分が気に入らなければ負け、自分が素敵と思えば勝ち。それをあえて友だちと競争するのなら、「どちらが自分に厳しく自分と競争しているかを競争する」

それは「きびしいけど、カッコいい」

園長 折井誠司



そんな子どもたちの抱く素朴な50個の疑問ひとつひとつに、著者が答えていく体裁を取りながら、実は、著者が考える人生や社会、身の回りに対する「構え」というものを、親たち大人たちに投げかけている本…著者曰く「頭がもつとしようぶになるための、体がもつとかしこくなるためのトレーニング」…そんな内容なのですが。()興味の

「何をしたらいいのか

自分でよくわからないんだ」

「多数決で決めちゃうって変だよ…」

「わたし ぼーっと

しているのが好きなの」

「ずっと働かないで暮らしてゆきたい」

「大人になんかなりたくない」

「名前を変えたい!」

「お金がほしい」

そんな子どもたちの抱く素朴な50個の疑問ひとつひとつに、著者が答えていく体裁を取りながら、実

- 編集 誠美保育園
- 編集人 折井誠司
- 発行人 折井誠司
- 印刷所 誠美保育園
- 発行所 誠美保社

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2
電話 042-6975-1155
ファックス 042-677-5643
Email: sebi@nokken.jp
http://nokken.jp/